



DOC Japan株式会社
代表取締役社長

大川 彰子 氏



大川氏は大学卒業後、一部上場企業の社長秘書を経て、アメリカに本社を置く外資系水処理会社へ就職した。

その後、水溶性の合成系ポリマーを得意とするグループ内の会社へ配置転換されたことが、化粧品原料と出会うきっかけとなった。

ここで長年培った経

験や専門知識を活かし、2011年12月にパーソナルケアやホームケア用途の天然系ポリマーを開発・提供するDOC Japanを設立した。

同社では、「化学を最適化して届ける(Delivering Optimized Chemistry)」

主力製品は、天然由来多糖類のセルロース

をコーポレートタグラインに掲げ、化学の可能性を最大限に引き出した製品とテクニカルサービスを通して、新しい経験や感動につながる感性価値を提案し、人々の幸せと喜びに貢献することを使命としている。

を由来とするカチオン性コンディショニングポリマーの「DOCQ UAT(ドックコート)10」(ポリクオタニウム10)で、売上の大きな割合を占める。原料ではのほか、天然

由来機能性ポリマーの「DOCSTARCH(ドックスターチ)C PLUS」と、天然由来コンディショニング剤「DOCSIIFee(ドックシルフィー)」が好調だという。「化粧品に配合して良い効果をもたらすためにポリマーの分子重やカチオン数を変え、それが実際にどのような効果を及ぼすかを検証し、さらにその実証データに基づき原料開発を行えることが我々の大きな強みだ」

化学の可能性を最大限に引き出し
高機能な天然系ポリマーを提供

地球や人にやさしい化粧品原料づくりを目指す同社では、東京都利島村で生産されるツバキ種子油の収穫作業をサポートし、そのツバキ種油を購入して生産者の事業継続に貢献する社会活動をコロナ以前から実施している。こうした取り組みが社外からも評価され、同社が本社を置く東京都墨田区より「すみだリーディングファクトリー2020」のSDGs推進部門に選定されている。

（左）